



知事コラム

佐竹敬久のさあ、やるど！

大連市での北前船寄港地フォーラムに参加して！

先日、北前船寄港地フォーラムに出席するため中国大連市を訪れました。

陸上の大量輸送手段がない時代の遠距離大量輸送の主体は海運で、日本海側に良港が多かったことから、江戸時代までは、いわゆる北前船がその中心的役割を果たし、米や銅など他地域に売り込める資源の豊富な本県も含め経済の中心は日本海側の都市でした。

しかし現在では経済活動の中心が太平洋側に移り、日本海側の落ち込みが目立つことから、北前船寄港地が連携し経済交流や観光振興に力を入れようと、10年ほど前に連携組織を立ち上げ、その後観光関係や交通関係の民間セクターも参加し、一般社団法人北前船交流拡大機構という公益法人にまで発展しました。

国も北前船寄港地は貴重な日本の文化遺産ということを認識し、昨年には秋田市が日本遺産として認定され、先日は、にかほ市、由利本荘市、男鹿市、能代市が追加認定になり全国では38自治体が認定されています。

これまでは国内持ち回りで毎年フォーラムを開催してきましたが、今回はクルーズ船誘致などを目的に、大型クルーズ港でもあり経済発展著しい大連市で開催することにし、本県からも関係自治体の首長さんや民間の観光・交通関係の方約90名が出席しました。

県でもインバウンド観光に力を入れており、合間を縫って観光セミナーを開催したところ、大連市の40社近くの旅行会社が参加され、大連市にはまだなじみの薄い本県に大いに興味を示して頂き、大連からの今後のクルーズ船寄港も視野に入ってきました。

ところで、「びっくり！」「たまげた！」ことがあります。

中国でも将来の少子高齢化が心配され、人口急増の抑止のための一人っ子政策はやめたようですが、社会の近代化とともに子供に良い教育をという気風が広まり、そのためには大変なお金がかかるということから、今でも一人っ子が大半で、また高齢者福祉制度が整っておらず、将来子供から面倒みてもらうという考えが一般的で、やはり男の子でなければという考えが強いそうです。

そのため、女の子は産まないよう出産調整をするようになり、ガイドさんの話で真偽のほどは分かりませんが、次第に男の子が多くなり、最近では子どもの男女比が7対3というような極端な都市も現れているということです。

それでは、男性の結婚相手がいなくなり、どんどん人口が減り、高齢化問題に悩むよう

になるのではと尋ねたら、なんと「そうなれば、日本の女性は中国人のあこがれだから、日本への婚活旅行が盛んになるのでは」との答えです。

当方「ギャフン」、中国人の考え方のなんとグローバルなこと、今のところは仮定の話ですが、中国は何でもありのバイタリティの塊のような国、中国の人口問題のしわ寄せで、今でさえ人口減少問題が深刻になっている日本がそれ以上の深刻な状態になった時のことを思うと、いささか考えさせられることがあった旅でもありました。